

再開を15分といたします。

〈午後2時05分 休憩〉

〈午後2時15分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、保坂 悟議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。〔11番 保坂 悟君登壇〕

○11番（保坂 悟君）

公明党の保坂 悟でございます。

発言通告書に基づき、1回目の質問を行います。

1、公共施設等における利便性の向上について。

(1) 障害児等入浴施設の市内設置について。

① 子供の成長に伴い入浴するとき、保護者の体力やお風呂場の環境が合わなくなる。障害児が安心して入浴できる環境が必要である。そこで糸魚川総合病院に併設されている旧「なでしこ」の施設を活用し、入浴サービスの提供を行うことはできるか。

(2) ひすいの里総合学校の玄関屋根の改善について。

① 車椅子等で登校する児童・生徒とその保護者が悪天候でも安心して校舎に入られるように整備をする考えはあるか。

(3) 市民会館における車椅子の利用者の対応について。

① 車椅子専用駐車場から玄関までの屋根を設置する考えはあるか。

② 車椅子の方が館内の飲食店を利用できる対策を行う考えはあるか。

(4) 市役所における車椅子の利用者の対応について。

① 市役所正面玄関のスロープを改善する考えはあるか。

② 市役所の車椅子の空気圧の点検は行っているのか。

(5) 糸魚川総合病院の正面玄関東側にある車椅子専用駐車場に屋根を設置することについて、病院側と協議をしているか。

2、福祉事業の拡充について。

(1) 手話通訳と要約筆記のセット化について。

① 糸魚川市では様々な講演会が活発に開催され、手話言語条例により手話通訳の登壇が浸透している。その一方で要約筆記に対する認識が弱いとの指摘がある。具体的には聴覚障害者のうち手話が分かる方は15%程度と伺っている。そこで今後、要約筆記者の育成とAIによる自動文字起こし機等の導入について、取組を考えているか。

(2) 障害児と障害者の就労支援について。

- ① 市内の会社等における障害者雇用の割合は達成できているか。
 - ② 障害者等の個々の身体的状態と仕事のスキルについてデータ化し、会社のニーズとマッチングさせるアプリの導入はできないか。
 - ③ 市では市内に福祉的就労の場をつくる考えはあるか。
- (3) NPO法人ぐりーんバスケット活動終了後の対応について。
- ① ボランティアによる有償運送が長い間、市民のニーズに応じてきたが12月で活動を終了すると伺っている。高齢者や障害者の方、経済的に不安のある方やひとり暮らしの高齢者の方、透析等で通院されている方への激変緩和的な支援を考えているか。

3、行政改革について。

- (1) ハラスメント対策としての録音のルール化について。
- ① 全国ではハラスメントに関するニュースが多く聞かれる。愛知県東郷町の町長の場合、職員は町長のハラスメントが日常的であったため、身を守るために録音をしていたとある。この録音によりハラスメントが判明している。市民、市職員、議員の中でハラスメントの認識にずれがある以上は録音やむなしと考える。宝塚歌劇団員もハラスメントで自殺したのではないかと報道されている。また、自殺や病気になってからでは遅いと考える。試験的に導入する考えはあるか。
- (2) 豪雪などの悪天候の安全対策について。
- ① 踏切事故防止のため踏切の道路拡幅や朝の通勤時間帯の除雪体制について、鉄道会社と積極的に改善策を図る考えはあるか。
 - ② 集中豪雨対策として、アンダーパス等の水位を自動で感知し、パトライトが発光する機器や同様にサイレンが鳴るような機器の整備ができないか。
 - ③ 消雪パイプの設置基準について、緊急車両の出入りの確保や地域住民の高齢化率や健康状態などを加味した検討はできるか。
 - ④ 山林から道路に伸びる枝木や竹の管理について、除雪作業車や観光バス、一般車両を枝木で傷めることがある。山林管理、特に枝の管理について、新たな条例が必要と考えるが、検討する考えはあるか。

4、駅北まちづくり戦略について。

- (1) 駅北子育て支援複合施設について。
- 行政が行う「にぎわいの拠点施設」は「楽しさ」と「ホッとすること」が重要であり、糸魚川での暮らしに「希望」が持てることが大切である。そこで以下について、現時点での考えを伺う。
- ① 土日、祝日の運営で考えていることはあるか。
 - ② 平日の運営で考えていることはあるか。
 - ③ 市外の方たちの受入れで考えていることはあるか。
 - ④ 能生地域や青海地域との連携で考えていることはあるか。
- (2) 駅北エリアにおける複数分散型施設の推進と支援について。
- ① テレワークやサテライトのオフィスを誘致する考えはあるか。
 - ② 子育て関連ショップ（事業所）を誘致する考えはあるか。

- ③ 子供の教育関連ショップ（事業所）を誘致する考えはあるか。
 - ④ 子供の玩具や書籍等のショップを誘致する考えはあるか。
- (3) 駅北エリアとしてのにぎわい創出について。
- ① 駅前通りと本町通りで定期的な歩行者天国を考えているか。
 - ② トリックアートによるインスタスポットの設置を考えているか。
 - ③ 町なかの移動手段としてグリーンスローモビリティ、電動キックスケーター、セグウェイ等を導入することを考えているか。

5、物価高騰対策と経済再生に向けた取組について。

政府が決定した「デフレ完全脱却のための総合経済対策」には、各地域の実情に合わせて、きめ細やかな支援策を進められる「重点支援地方交付金」の予算が追加された。

そこで、この交付金を活用して物価高騰から市民生活を守り、経済の着実な回復を図る必要があるので、以下の取組を伺う。

- (1) 低所得世帯への給付金について。
- ① 経済対策において低所得世帯支援枠に1世帯当たり7万円を追加することが盛り込まれた。市としては年内に予算化をする考えはあるか。
- (2) 推奨事業メニューについて。
- ① 推奨事業メニューの追加を受けて、市は年内の予算化を考えているものはあるか。
 - ② プロパンガス料金や学校給食費等の負担軽減など、市民生活への支援について、具体的なものを考えているか。
 - ③ 燃料高騰に対する負担軽減や人手不足対策など、農林水産業や中小企業等への支援について、具体的なものを考えているか。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

保坂議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、施設管理の面で課題が大きいとお聞きしており、現段階では困難であると考えております。

2点目につきましては、学校や保護者の意見をお聴きし、検討してまいります。

3点目につきましては、関係者と協議しながら検討してまいります。

4点目の1つ目につきましては、今のところ予定はございません。

2つ目につきましては、不定期ではありますが、空気圧の確認をいたしております。

5点目につきましては、設置について検討していただくようお願いをしております。

2番目の1点目につきましては、現在、市内には活動している団体がいないことから、要約筆者の育成について取り組んでまいります。

また、自動文字起こし機能の活用については、研究してまいります。

2点目の1つ目につきましては、障害者雇用義務のある民間企業全体で法定雇用率2.3%を達

成いたしております。

2つ目につきましては、ハローワークや障害者就業生活支援センターなどが、その役割を果たしていると捉えております。

3つ目につきましては、市内では4か所あり、ニーズを見ながら拡充について検討してまいります。

3点目につきましては、1月から人工透析のために頻回な通院が必要な自立支援医療受給者に対する支援を検討しております。

3番目の1点目につきましては、ルール化する予定はございません。

2点目の1つ目につきましては、交通量や安全性などを踏まえ、必要に応じて鉄道会社と協議を行ってまいります。

2つ目につきましては、市内の一部のアンダーパスで運用しており、状況に応じて対策を進めてまいります。

3つ目につきましては、消雪パイプの設置には地下水の確保が不可欠であるとともに、地域の実態等を考慮した検討が必要であると考えております。

4つ目につきましては、現時点では新たな条例を制定する考えはございませんが、通行の支障となっている樹木の所有者には、適正な管理をしていただくよう、伐採等のお願いをいたしております。

4番目の1点目につきましては、駅北大火からの復興に向けたにぎわいを創出するため、子育て支援を中心に、多世代が交流できる場所を目指し、ご提案の趣旨も踏まえながら、居心地のよい施設となるよう整備を進めてまいります。

2点目につきましては、3年度から主にICTを活用した企業がオフィスを設置し、多くの従業員が勤務されております。今後とも、新幹線駅前という立地を生かして、企業誘致に努めてまいります。

3点目の1つ目と2つ目につきましては、商店街や各種団体の皆様が、独自にイベント等を開催する場合には、引き続き協力をいたしてまいります。

3つ目につきましては、イベント等での活用について、調査・検討してまいります。

5番目の1点目につきましては、年内の予定化に向け、調整をいたしております。

2点目につきましては、国の情勢を注視しながら検討を進めております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。

○11番（保坂 悟君）

すいません、順番を変えます。

まず、5番目の物価高騰対策と経済再生に向けた取組についてであります。

今ほど低所得者世帯に対して対応してくださるんですけども、今回も補正予算のほうで関連するものですから、ちょっと細かい数字のことは聞きませんが、今後のスケジュール等についてち

よつと確認をさせていただきます。

住民税非課税世帯への、一応4,300世帯となっておりますけども、1世帯当たり7万円に、その給付のスケジュール、今考えられる給付のスケジュールと給付方法について、今どのように考えているのかお伺いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯貝福祉事務所長。〔福祉事務所長 磯貝恭子君登壇〕

○福祉事務所長（磯貝恭子君）

お答えします。

こちらについては、この後、審査を受ける形になります。今考えておりますスケジュールですが、これまで行ってきた給付と同じように、確認書を送って、それを返信していただく形で確認をして、給付をするということになろうかと予定しております。

時期につきましては、国のほうとしてもなるべく早くというところもありまして、私どももなるべく早く支給できるように、できれば年内に支給をとというふうにして思っていますが、順次、準備をして、なるべく年内に給付できるように組んでいきたいと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。

○11番（保坂 悟君）

むしろ通告書を出した時点で分からなかったものですから、今回、質問になってますけども、逆に非常にスピード感を持って対応してくださってることに感謝申し上げたいと思います。

ただ、今回、物価高騰の1世帯7万円と灯油代5,000円ということであるんですが、これ以外に、例えば人手不足対策であるだとか、あと、特に農林、稲作ですかね。今年のこのシーズンのこういう、米の一等米の比率が悪かったことであるだとか、そういうことを踏まえての支援とか、何かほかにも何か考えられるのかなとは思っていたんですが、そういったところへの支援というのは、今回の場合は、今回の国の対策を使ってするものは特に考えがないということで、今回補正で上げた2点ということによろしいでしょうか。もうそういうほかにも考えみたいなのは、ありますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務部長。〔総務部長 渡辺孝志君登壇〕

○総務部長（渡辺孝志君）

では、私のほうからお答えさせていただきたいと思います。

議員が言われるのは推奨事業のほうだというふうに思いますが、今年に入りまして物価高の関係で、今回の補正の農林の関係でも上げておりますし、交通の関係でもあります。子供への支援というところを考えております。もう既に、こういったところでもう事前に取り組んでいるところもありますので、さらに推奨メニューでは、そこに厚みをつけるというふうに捉えておりますので、今、

情報が昨日来たばかりですので、順次そういった情報を取り入れて、まだ新たにできるのであれば、また新たなものを取り上げますし、今やってるものの継続であれば、そこへもうちょっと拡充していくと。そこら辺のところを庁内で検討して、進めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。

○11番（保坂 悟君）

本当に、国ももう少し早めに対応してくださればよろしいですけど、各自治体に負担をかけるような予算の成立ということで大変かと思いますが、ただ、また市民生活のほうも物価高騰の影響を本当に受けているものですから、そういったところをアンテナを立てていただいて、本当に困ってる、本当にあの悩ましいところに支援ができるようにしっかりやっていただけるものと信じておりますので、ぜひよろしく願いいたします。

この点については、これで終わりにいたします。

次に、これもまた順番変えて、番号4番の駅北まちづくり戦略について、お伺いしていきたいと思えます。ほとんど質問といいますか提案型になっておりますので、聞いていただいて、考えがあればご回答いただければと思えます。

まず、①の土日・祝日の運営についてであります。

私、以前より、こども消防隊の消防本部等をモニュメント的につくって下さいという話をしておったんですが、今回ちょっと踏み込みまして、屋内遊戯施設を造る前提として、仮称ですけども、こども消防隊育成センターと銘打ち、消防隊員の訓練に見立てた大型・中型・小型の遊具をそろえて、できれば木製のものだとか、あとロープを組んだネットみたいなものであるだとか、小さいお子様から小学生まで思いっきり体を動かす遊びの提供や、友達同士、またそこに集まってくる子供たち、即席のグループで考える遊び、自分たちで考えて遊ぶ、物を提供するであるだとか、あと屋内であっても衛生的な粘土遊びや砂遊び、水遊びも検討してもらいたいなと思うんですけども。今、なかなか委員会のほうでも、そこまでの踏み込んだ議論ってなかなかないんですが、どこで言おうかと思ったんですが、あえてこの時期に言っておいたほうが、DBOになろうが、直営、指定管理になろうが、参考にしていただけるかなという思いを込めて、今あえてここで考えをお伺いしたいと思えますが、今ほどのこういう遊びへの感覚というのは、取り入れていただける要素はあるんでしょうか。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

今ほどの提案の件につきましては、駅北地区につきましては大火が起こりまして、そういった歴史的な経過を踏まえて防災面に関するものを子供にも感じていただくというふうな意味合いだというふうに捉えております。

また、それ以外にも糸魚川市の財産ということで、例えば石のまち、糸魚川の石であったり、ま

た、海と山と川が近接するということから、山ですと木を使ったものということで様々な要素が考えられるかと思っております。やはりそこを利用した方々、様々な利用形態、今までグループであるとか、あるかと思いますが、利用された方が、そこへ来て、何か得て帰られるといったものとなるような形の施設づくりを、今後の運営の中で検討していきたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。

○11番（保坂 悟君）

それから、今日もほかの議員からもご指摘ありました地域通貨翠ペイであります。地域通貨翠ペイを活用して、この屋内遊戯施設の運営の中で、中・高生にスタッフになっていただいて、具体的には子供の遊び相手等になりますけども、そういったボランティア的な、有償ボランティア的なスタッフになってもらって、東京にある、要は緩いキッズ的な遊び場の発想で面白いことを展開していく。要は、小さなお子様と、そういう中高生の接する場であったりとか、当然指導しながらスタッフとして活動してもらいなんですけども、やはり多世代の交流といっても、やっぱりそういう機会を提供しないことにはなかなかそういった場面というのはありません。今の中・高生忙しいからそんなことできないよと言うかもしれませんが、別に毎日来いというわけでもありませんし、何かのボランティア活動の一環として、そういうところでお手伝いしてみるだとか、そういう機会は、また夏休み期間を使うのであるだとか、例えばキャリアフェスティバルじゃありませんけども、そういう働く意識という部分で翠ペイを頂けるということで頑張ってみるという子も出てくるかもしれませんので、そういったところもちょっと複合的な考えた取組というのを展開していただきたいなと思うんですが、そういう考え方というのは導入できますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

確かに、今少子化の中で、なかなか兄弟が少ない。または兄弟がいないという家庭も増えております。そういった中で、異年齢の方々と触れ合うということは、例えば高校生にとっても、また乳幼児、小学生にとっても、それぞれの効果があると思っております。既に市のほうでは、主に高校生を対象としまして、アオハルサポーターと呼びまして、市の各種、主に教育委員会の生涯学習の講座といいますか、事業のほうに既に応援していただいているといったものもあります。そういったものが今少しずつ根づきつつありますので、現在はそういったものを受けましたという証明書みたいなものを発行するだけにとどまっておりますけども、例えば翠ペイを使ったものでポイントを少し付与するといったことについても、手法の一つかというふうに考えておりますので、そちらにつきましては、検討したいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。

○11番（保坂 悟君）

次に、先ほどのこども消防隊育成センターとちょっと絡んでくるんですけども、現在、毎週土曜日、夕方5時30分に日本テレビ系で、「め組の大吾 救国のオレンジ」というアニメーションが放送されています。内容は、3人の若い消防士が特別救助隊（通称、オレンジ）と言うんですけども、それを目指すもので、過酷な状況の中から人々を救い出すという消防士の成長物語が今流れております。完全に内容把握しているわけではありませんが、チームで連携協力して救助する姿は、子供たちにとってもよいものかなというふうに私は考えております。

このアニメーションをちょっと調べてみましたところ、総務省の消防庁が、関東大震災から100年たつそうなんですけども、その機にして、「め組の大吾」の何かポスターを全国の都道府県、あと自治体と書いてあったんですが、糸魚川に届いてるかどうかちょっと私確認はしてないんですけども、「め組の大吾」のアニメーションのポスターが、要は防災・防火というキャンペーンで何か配られてるそうなんですけども、それ自体よりも、こういった取組があることで、今回の施設の場所が、駅北大火自体は本当悲しい出来事ではあるんですけども、そこから蘇生していく糸魚川市として、また若者の成長に結びつけて、こういった「め組の大吾」、アニメーションを使ったものをこの施設の中でコラボレーションしていくような、そういった取組をぜひやっていただくと、違った意味で、また駅北のスポットの当て方というのができるのかなというふうに思います。総務省、消防庁が認可しているアニメーションですから、意外に渡りがつきやすいんじゃないかなと思うんですけども、その辺ちょっとそういった考え方も、ちょっと検討材料に入れていただきたいんですが、その辺いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

すいません、私、実は今ほどお話でありましたアニメについて、まだ拝見したことないものから、まず、自分でも見てみたいなと思っております。

やはり今、議員おっしゃられますとおり、大火という出来事がありました、それを後世にも引き継いでいくといった部分が、それぞれの施設等にも役割がありますが、やはり駅北エリアという部分では、そういった要素といった部分も子育て支援施設の中でも必要になってくる部分もあるかと思っております。こういった形で利用者にそういった部分を伝えていけるかという部分は、まだ煮詰まってない部分もございますので、今後、運営する中でそういった要素につきましても検討してまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。

○11番（保坂 悟君）

アニメーションなので、どこまでヒットして、どこまで影響が出るかは分かりませんが、全然別次元の話ですけども、「キャプテン翼」というアニメがありまして、それが本当、世界で流布していて、この間も有名なサッカー選手が、やっぱり子供の頃、「キャプテン翼」を見て、サッカー

一にのめり込んでいったって話がある。だから、日本の文化、このアニメーションというのは、何だろう、すごく影響力があって、そういうものを今回たまたま「め組の大吾」というものが消防士を対象にしている、駅北大火というふうに結びつけているんですけども、せっかくの機会ですから、ぜひアプローチをかけていただきたいなというふうに改めて申入れをしておきます。

次に、同じくこの屋内遊戯施設の中で、いわゆるアナログ的遊びについて、まず提案させていただきたいと思いますが、ついこないだ権現荘のほうでもちょっと案内あったんですけども、将棋やオセロ、権現荘は野球盤もあったんですけども、例えばボードゲームであるだとか、フラフープであるだとか、あと、いわゆる自分たちで作るすごろくみたいなものとか、既製品も当然いいんですけども、またそういったものを使って、また自分たちで新しいルールをつくったり、そこにいるメンバー、そこにいる年齢層に合わせて、何か工夫して遊ぶという、そういうアナログ的な遊びというのもぜひ進めていただきたいですし、当然おままごとや、あと、子供たちレジを打ったりするのも何か好きらしくて、レジを打つとかね。あと、今3Mさんで今一生懸命いろんな行事やってるんですけども、棒にパンを巻いて焼くとか、非常に面白いなと思いますし、あと、フルーチェみたいな、商品名出していいのかわかんないですけど、フルーチェみたいな酸化させて液体を固めるとか、あと、色の混ぜ合わせ方、赤と黄色を混ぜたら何色になるかとかという、そういったいわゆる理科系の遊びというのもアナログとして積極的に取り入れていくような、そういうことを考えていただきたいんですけども、そういった考えというのはございますでしょうか、その屋内遊戯施設の中で。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

今まで、数多くの提案といいますか提言を受けたというふうに捉えております。なかなか今の時代の子供では、過去の遊びといいますか、伝統であるとか昔ながらの遊びといったものを経験していない子供さんもいらっしゃる。そういったことが、この施設に来ればできるといったことも大切な施設の魅力の要素だというふうに考えております。今後は様々なプログラムといいますか、内容を決める中で、どういったものが子供にとって喜ばれるのか、また、ずっと同じようなものだけではなくて、やはりいろんなものを試行錯誤する中で、プログラムを変化することによって、今度はまた違う部分で行ってみようといったような形で、また行きたくなるような施設づくりに努めていきたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。

○11番（保坂 悟君）

あと、言うの忘れてました。知育お菓子とかといってたら「ねるねるねるね」とかって粉を入れて、何か水を混ぜて練ると何か形になるようなお菓子というか、おもちゃみたいなお菓子なんですけども、色もカラフルなんですけども。そういったものも取り入れていただきたいですし、あと、

アナログの観点でいうと昆虫、小動物、あとお魚、糸魚川ですからね、カニとかエビコーナーみたいなものも、やっぱりそういう生き物に触れる場というのも何か考えていただければなというふう
に思っております。これは、また衛生面だとかいろんなハードルは高いんでしょうけど、やっぱり
いろんな子供たちに刺激が与えられる空間にさせていただきたいなと思います。これ一つ、要望にし
ておきますね。

まだあるんですよ、アナログの関係で。今回テレビを見てましたら、キャリア教育みたいなんで
すけども、新潟市で新潟交通さんの路線バスに、運転席の真後ろに子供用の運転席を設置して、ハ
ンドルがついてあるんですね。その目の前にはモニターをつけて、それが本当の運転席にカメラが
ついてて、そのままの映像が、何ていうの見ながらハンドルを回すという、そういう子供向けのそ
ういう取組を路線バスでやってます。すごいなと思いました。

それを見て思ったのは、何ていうのかな、運転手の英才教育というか、後継者育成という、そう
いう言い方もあるんですけども、子供にとってやっぱり大人のまねをするというのは非常に興味を
持つことになりますので、当然さっきの消防士もそうなんですけども。あと、糸魚川市は職業の特
色って建設業界のウエートが大きいもんですから、例えば今おもちゃってすばらしいんですね。シ
ョベルカーのこういう重機みたいなものとかを扱ったり、ブルドーザーみたいなものがあつたりと
か、これを各家庭で買うとなるとなかなか大変かと思っておりますので、こういった職業に関連づけて、
ミニキャリアフェスティバル的な、遊びを通して大人のこういう仕事というものを知ってもらうよ
うな機会というのも、ぜひ真剣に考えていただきたいなと思うんですね。やはりそういうところに
自分の得意なものだとか、興味のあるものとかという発見につながるもんですから、そういった大
人のまねごとから、何ていうのかな、自分の得意な部分を自覚していくような、そういうチャン
スを与える場所にもしていただきたいと思うんですが、そういった考え方っていかがなものでし
ょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

例えばキャリアフェスティバルですと、現在、中学校2年生を対象に市内でも行っておりますが、
やはり中学生の姿を見ていまして、そういった何か機械だとか物に触れるというのは、やっぱり
中学生の姿を見てますと、やはり目をきらきら、さらに目をきらきらして、関心を持って伺うとい
うふうな姿を見られます。

今回、小さい子供の中で、例えば乗り物であれば、自分は乗るだけであつたものが、逆に今度、
運転する。サービスをする側の立場をするということは、なかなかできない経験でもあろうかと思
っておりますし、職業につながるということは、いろんなものを子供が体験する中で、成長してい
く中で生かされていく部分だと思っております。どのような形でこの施設で運営の中に盛り込める
かという部分につきましては、職業を少し体験できるという部分では小さいときでの感じ方とい
った部分も大切かと思っておりますので、そのような視点を運営の中にも生かしていければと考えて
おります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。

○11番（保坂 悟君）

今までの、いわゆるアナログ的なものなんですけども、次に、今度デジタル的な遊び。私もそんなにデジタル得意じゃないんですけども、今の子供たちは、もう生まれたときからデジタルの環境にいます。これもまた職業等につながっていくんでしょうけども、例えばドローンの操作であったりだとか、同じくラジコンの操作であったりだとか、あと、子供たちにとってキーボード、あれも仕事としてやるとつらいんですけども、ゲーム感覚で早く正確に打つだとか、そういう何ていうの、指を慣らす。ピアノもそうかもしれませんけども、そういうキーボードで早く打つだとか、あと、今チームラボさんがよくやってるんですけども、自分の描いた絵を機械に、あれ何て言うのかな、読み込ませると、天井でもどこでも自分の書いた船でも虫でも動くんですね。そういった空間で、やっぱり自分の書いたものが動き出す。自分の書いたものが、何ていうのかな、大きくなったり小さくなったりするという、そういう、何でそうなるんだろうという気づきみたいなものを、ぜひ提供できるような空間にしていきたいなど。

次のeスポーツについても、その子にとって特性が生かされればそれもいいことなので、あえて否定的に私は捉えてないんですが、そういったeスポーツの部分でも、そういうデジタル的な遊びというものもあえて入れていって、子供たちの可能性を広げてもらいたいと思うんですが、そういったデジタル化の遊びについては、今回、この屋内遊戯施設、検討の材料に入りますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

デジタル機器を使ってる部分についてということで、今回、子育て支援施設につきましては、乳幼児から小学生までということを中心に主な対象者ということで、特に屋内議場では考えております。

そういった中で、今、様々な提案をいただく中で、デジタルを使う年齢がどれぐらいがいいのかといった部分もございしますが、やはり様々なことが体験できるといった部分は、その施設の魅力ではあるかと思いますが、逆に何か一つテーマといいますか、コンセプトを絞ってやるといったことも大切かと思っておりますので、いろんなメニューを用意するのか、また、ある程度絞ったメニューをするのかといった部分につきましては、今後、大切になる部分だというふうに捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。

○11番（保坂 悟君）

今、アナログとかデジタルとあえて言ったのは、屋外ですと、当然遊び場としてはできるんですけども、管理ができないんですね。だから、あえて屋内遊戯施設の中での管理と、やっぱり品物を大事に扱わなきゃいけないものですから、そういった意味で提言をさせていただきました。

次、2番目の平日の運営についてであります。

平日は、先ほども伊藤議員のほうからもありましたとおり、子育てに不安がある方、また、その子育てに関して思いどおりにならないで悩んでる保護者の方、そういった方について、やっぱり専門的なアドバイス、相談を受け入れる側として、曜日を決めて専門家に対応する。そういうメニュー化をぜひしていただきたいですし、今度メニューの中にも発達障害、身体障害、あと医療的ケア児、あとネグレクト、ネグレクトは子供の視点もありますけど、親側のほうも、自分が受けてきたそういったもので、ネグレクトを持ちながら、また子育てをする自分もいたりとか。あと、産後鬱、あと子供同士の付き合い方とか、そういうコミュニケーション、保護者同士のつながり方とかそういうコミュニケーションがなかなかうまくいかないとか、ほかから転勤してきて、なかなか知り合いもいなくて困ってて、孤立化していくのであるとかいう、そういう相談だとか。そういったところにかかなり傾注して、当然アポを取って、予約して相談するのがありますけども、本当にもう困って困って、行くところがないというときに、居場所というか相談場所になるような、そういう仕組みもぜひつくってもらいたいと思うんですが、平日、そういう運営に力を入れていただきたいんですけども、その辺の考え方、いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

少子化の中で、やはり周りにお子さんがいなくて、子育ての孤立化であったり孤独化といったことが、課題というふうに捉えております。

そういった中で、今回、屋内遊戯場と併せて、主に相談機能を持ちます子育て支援センターを持っております。もちろん子育て支援センターに相談に来るといった形でも結構ですが、まずは屋内遊戯場、遊び等、また体を動かすことを通じて、その辺、垣根の低いものということで足を運んでいただく。ほかの方と交流していただくといったところから、まずはスタートしていただく施設になればと思っています。そういった両者がこちらのほうで活動といいますか、そういった中で、今ほど議員がありました子育ての悩みであるとか、発達支援、そういった部分の課題解消にもつなげればなと思っていますし、こちらの施設一つだけで、様々な課題が解決するわけではございません。一つのきっかけづくりになる施設になればというふうに捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。

○11番（保坂 悟君）

あともう一つ、この屋内遊戯施設で私一番大事にしたいなと思っているのは、お子さんの健康状態、いわゆるアレルギーを持っているだとか呼吸器系にちょっと心配がある方だとか、いろんなその普通に外で遊ぶ、普通に体育館に行ってお遊ぼうということもなかなか難しい子供さんの場合に、やっぱり一定のルールをつくりながら、曜日を決めて開放日にして、そういう方を優先的に遊んでいただく場を設けるだとか。あと、そういう何ていうかな、仲間同士で自由にその空間を楽しんでもらうとか、それは別に市内に限らなくて、ほかの市外の方でもよろしいかと思うんですが、そうい

う安心して遊べる空間というのも、ぜひ今回、糸魚川で提供してもらいたいなという、そういう気持ちがあるんですけども。そういう子供の状態に合わせた遊びのメニュー化みたいなものを考えていただきたいんですが、そういった考え、ありますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お子さんの状況というのは、人それぞれあるかと思っております。以前も議会のほうでもお答えしておりますけど、障害がある、ないにかかわらず、こういった施設を利用される方には利用していただきたいというふうに思っておりますし、また、例えば障害のあるお子さんにとっても、様々な障害がございます。障害の種別によって、どのような形でこちらの施設を利用していただけるか、利用しやすくするかといったことが課題だというふうに捉えておりますので、今後、運営を決めるような中で、今ほどの視点を持って進めてまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。

○11番（保坂 悟君）

次、今度③番の、市外の方の受入れについてであります。

私の中では、糸魚川市の半径100キロ、全長で200キロかな、要は石川県から、こっちは新潟ぎりぎりぐらまで、新潟まで、長岡か、長岡ぐらまでかもしれませんけども、それぐらいをちょっと意識した取組を考えていただきたいなと思っております。どこの地域でも、同じ施設だけではやっぱり子供も親も飽きてしまいますので、何ていうか定期的に遠くからも遊びにきていただくようなことも想定しながら、いろんなアピールをしていただきたいと思います。そのときに大事になってくるのが、デジタルで情報案内をちゃんと出していくか。または、いろんな、先ほど出ましたけど道の駅みたいところに、やっぱり糸魚川市のところにはこういう施設があるんだ。特にやっぱり同じようなところ、同じような子育て支援施設みたいところにもちゃんとお願ひして、糸魚川にもこういうところあるんでぜひ来てくださいますか。当然、向こうのしおりなり何なりも、こっちもちゃんと置きますんでみたいな、同類の施設間交流みたいなのをやっていただきたいんですね。そうすると、親御さんにしてみると、次、富山県へ行ってみよう、次、石川県へ行ってみよう、次、新潟の北部へ行ってみようとかというバリエーションが増えます。それぞれの特徴もまた学びながら、いいものは導入すればいいと思いますし、逆に、個性を引き立たせるのも大事なと思うので、とにかくもう市内の子供限定でいろいろ物事を考えがちなんですけども、当然、市内の子供も大切にしながら、やっぱり交流、これなぜ大事かという、やっぱり知らない子と遊ぶとか、親同士も知らない人と、何ていうの距離感を縮めていく。そういうテクニックというのちょっと語弊あるんですけども、自然の中で人と交流ができるような場面の一つになってもらいたいということなんですけども、できましたらさっきの翠ペイです。来てくださった方には、そういう何かポイントをあげるだとか、紹介していただいたらポイントをあげるだとかということも、ちょっと今本当に皆さん親御さんもスマホを使っていますんで、今、医療機関の予約するのも全部スマホでやっています

よ。だから、そういったところでポイントにも、そういうの集めるの好きな方も大勢いるので、そういった翠ペイを使った、糸魚川に来たらこういう特典があるんだ、こういうポイントがあるんだ。当然、施設も利用してもらおうという、そういうつながりをこの機会にぜひ考えてもらいたいと思うんですが、いわゆる翠ペイによる優待券みたいなものをイメージしていただければいいと思うんですが、そういった交流、同類の施設間交流みたいなものを考えていただきたいんですけど、その辺の考え、いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

こちら、駅北の子育て支援施設につきましては、もちろん市民の方をはじめ多くの方々にご利用していただきたい施設というふうに考えております。

そういった中で、ほかの施設を相互連携するような形でということで、先般も総務文教常任委員会の視察で塩尻市に行きましたら、市内にある子育て支援センターの休みの日をそれぞれ変えて、やはり行き来しやすくしているといったふうな工夫というものも、私ども学んできたところでございます。

また、他市との施設情報の交換等によって相乗効果が上がるといった部分も、今ほどご提案も頂きましたし、今の子育て世代の方々については、例えばSNS、インスタグラム等を通じまして情報をやっぱり得やすくしやすくといった部分も必要だというふうに考えておりますので、どのような形で利用したい人に情報を届けるか、また利用したくなるような情報を届けるかといった部分につきましては、考えていかなければならないと思っております。

また、利用者への翠ペイのポイント等の付与につきましては、市内の方、または市外の方等について利用できるかという部分につきましては、検討の材料だというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。

○11番（保坂 悟君）

1つ項目、括弧飛ばして、次の駅北エリアのにぎわいについて。

とにかく施設で皆さんにぎわいを創出しようとするんですけども、私、駅北エリアはやっぱり全体的のにぎわっていただかないといけないという考えがございまして、それで1番で歩行者天国という言い方をしております。とにかくちょっと言葉があれなんですけど、面白いことを真剣に考えていただいて、一見ばかばかしいなと思うようなこともやっぱり本町通り、駅前通りでやっていただきたいなど。どっかで言ったかもしれませんが、ティラノサウルスの着ぐるみを着て走る、こういうレースをするのがアメリカで発祥されて、市販されているティラノサウルスで競走するのは、日本でもSNSで話題になっております。そういったものを歩行者天国の中で、走ってる姿がかわいいんですわ、本当に。そういうのをお互いに見て、動画を撮ったりしていただく。

また、あとキャリアフェスティバルのように地元企業の皆さんから、歩行者天国で定期的に、事

業所がもう創意工夫でいろんな出し物を考えていただいて、根っこには後継者育成、人員確保という遠い目標はあるんですけども、子供たちや、そこに来る保護者さんたちに面白い遊びを提供してもらうような、キャリアフェスティバルの遊びバージョンみたいなものを歩行者天国でやっていただけると面白いと思うんですけども、当然お金かかることもあるんですけども、それは事業者さんからなるべく提供してもらうような、そういう参加の仕方プランを立てていただきたいんですが、そういった考え方って、あるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

歩行者天国で、市で実施いたしましたものは、糸魚川マルシェというものがございます。自分で言うのもあれですけど、成功した事例なのかなというふうに思っております。

しかし、やはりその成功は、民間の方が自発的に活躍していただいたものが成功した理由なのかなというふうに思っております。やはりイベントというのは、経費と人というのがたくさんかかってしまいます。市が、やはり主導して一時的に補助金だとか力を入れたとしても、やはりお金の切れ目が縁の切れ目ではないんですけど、それでイベントが終わってしまったら何にもなりませんので、今ほど保坂議員、ご提案いただきましたキャリアフェスティバルみたいなものにつきましても、関係する団体等が自主的に、自発的に動いていただいて開催することは可能なかなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

担当課が答えると、そのようなお答えになるだろうと思っておりますが、しかし、キャリアフェスティバルは、やはり非常に市内の子供たちにインパクトを与えていることは間違いございません。そういう中で、やはりこれから人材不足をどのようにカバーしていくか。企業の皆様方も、やはりそういった思いは非常に大きいものを持っておられるわけでございますので、そういった、やはり市民に愛される、また、将来を目指す子供たちが目指すものの中においては、やはり情報発信を1回だけでは、私はやはり駄目ではないかなと。同じようなことを何度もやっても駄目なんで、今、歩行者天国みたいなもの、また、今いろんなイベントと併せながら、市内のイベントに併せて、そういったことも考えていただいてもいいのではないかなと思いますので、やはりこのリーダーシップをとるのは、民間でも企業でも、また公でも、私は構わないんじゃないかな。その辺をやはりいろんな方々と協議をしながら、より後継者不足を解消していったり、その企業のアピールになったり、そしてにぎわいにつながっていれば、私はいいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。

○11番（保坂 悟君）

あと、静かなにぎわいということでトリックアートを以前から言ってるんですけども、駅北エリアにいろんなミニ公園等もあります。都市政策課長に怒られるな。道路も一定期間、トリックアートの描いて、そこで写真撮ってもらおうとか、ええこんなところでこんな写真撮れるのというところを、あえて開放してもらって、そこでトリックアートの写真撮ってもらおうとか、そのほうが、かえって希少価値が上がるかもしれませんけども。そういった駅北でトリックアートの取組を店舗のシャッターを借りるだとか、空き家の壁を貸してもらえれば、そういうところでも描いてもらう。当然、高校生に描いてもらったり、いろんな方に描いてもらうのもいいかと思うんですが、そういったトリックアートの取組を駅北でやってもらうという考え方は、いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

今ほどの市長の答弁前までは、恐らく役所的な答弁になったんだと思うんですが、やはり誰がやる、公がやる、民がやるというところは取り払わないと、待っていても進まないんだなというところは分かります。

過去に、歩行者天国にしろそういうイベントで、盛り上がったときもありますけど、結構失敗したとか反省だとか、喜んでくれた人の反面、こういう声をいただいたという蓄積だけは私ども持っていますので、例えば私どもがやる場合にはそういうのをちゃんと踏まえてとか、お手伝いするときにはそういうサポートというか助言を与えたりとか、そういう両方立てるような取組方でトリックアートをじゃあどこで、道路の真ん中に穴空いとるような絵が本当に描けるんかどうかというところは楽しみですけど、可能性とかそういうところも考えてみたいと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。

○11番（保坂 悟君）

最後の質問になるかと思えます。

町なか移動手段のところで、グリーンスローモビリティを書かせてもらいました。こないだ、11月20日、乗らせてもらったんですけども、非常に形が真四角というか長方形の形をしています。あの形をうまく使って、電子レンジがいいのか、カラーボックスがいいのか、かばんがいいのか、チョコレートがいいのか、アイスクリームがいいのか分かりませんが、何かかわいらしいデザインのを本当に町なかで走らせてみる。それだけでも話題づくりになるのではないかなと思いますので、そういったデザインに凝ったものを、それもまた写真撮りに来てもらえるかもしれないし、そういった取組をぜひ駅北で展開していただきたいなと思うんですが、その辺いかがなものでしょう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

町なかの移動手段というだけの発想だと、多分、保坂議員おっしゃるような考えというのは浮かんでこないんだなということは思います。今の町なかの移動手段、グリーンスローモビリティだけではないです。タクシー、路線バス、様々ございますし、本当に移動手段として考えた場合に、例えば町なかの口の字ぐらいだったら、私は歩いてもらえればと思うんですけど、例えばミュージアムに行くときにかわいらしいのが走つとると、そういう移動手段と、その何か映えとあんまり言いたくないんですけど、そういうのが合わさったようなところというのは考えていきたいんですけど、まずは、グリーンスローモビリティを用意するとか、そういう財政的な部分とか、いろいろ検討すべき課題は多いかなと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。

○11番（保坂 悟君）

いろいろ提案させていただきました。ありがとうございました。

以上で、一般質問を終わります。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、保坂議員の質問が終わりました。

暫時休憩いたします。

再開を20分といたします。

〈午後3時07分 休憩〉

〈午後3時20分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、利根川 正議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。〔1番 利根川 正君登壇〕

○1番（利根川 正君）

みらい創造クラブ、利根川 正です。

発言通告書に基づき、1回目の質問をお願いします。